

ATG Film Exhibition

2006 6.8 → 6.11

(木) (日) 入場無料 事前申込み不要(定員600名)

会場：京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

六月八日 十八時開演
六月九日 十八時開演
六月十日 十四時開演
六月十一日 十四時開演

寺山修司 『書を捨てよ町へ出よう』一九七一年
アフタートーク アフタートーク
大島渚 『新宿泥棒日記』一九六九年
アフタートーク 葛井欣士郎×毛利臣男
松本俊夫 『薔薇の葬列』一九六九年
アフタートーク 松本俊夫×四方田犬彦
若松孝二 『天使の恍惚』一九七二年
アフタートーク 若松孝二×足立正生



同時開催: 6月5日(月)~11日(日)9時~18時 『ATGポスター 葛井欣士郎コレクション』展 京都造形芸術大学 1Fラウンジ
会場無料



ATG Film Exhibition

2006 6.8(木) → 6.11(日)

入場無料 事前申込み不要(定員600名)

(日) 会場: 京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

※当日は、事前申込み不要ですが、あらかじめご連絡頂けましたらお席をご用意致します。

六月五日(月)～十一日(日)九時～十八時
(映画上映時は、公演終了まで)
『ATGボスター 葛井欣士郎コレクション』展
京都造形芸術大学 一階ラウンジ
入場無料

葛井欣士郎 (映画演劇プロデューサー)

激動の1960年代、世界の映画は新しい変貌を見せはじめた。

フランスのヌーベルバーグ、ドイツではアンドレ・キノ、アメリカではアンダーグラウンドシネマ、そして日本ではATG映画、そこから新しい才能が生れ、優れた才能が輩出した。

毛利臣男 (京都芸術劇場 芸術監督)

1960年代末～70年初頭…まだ学生だった僕はATGのシンボルともいえるアートシアター新宿文化、アンダーグラウンド蠍座で映画や演劇の虜になっていました。今回「ATG Film Exhibition」では特に印象に残った4作品を上映したいと思います。そして、素晴らしいゲストとのトークショーやポスター、図録等の展示も行います。どうぞお楽しみ下さい。

書を捨てよ町へ出よう



1971年／35mm／カラー／スタンダード／138分

製作・九條今日子(今日子)／製作、監督、原作、脚本・寺山修司／撮影・鶴田正義 仙元誠三／音楽・下田逸郎、J・A・シーザー、柳田博義／美術・榎本了壱、林静一／演出・佐々木英明、平泉征、斎藤正治、丸山(=美輪)明宏
解説:寺山による同名の詩「天井桟敷」での上演をもとに、幻想と現実、過去と現在を錯綜させながら、青森から東京にやってきた「私」を中心、風変わりな4人の家族の様を描いていく。観客を挑発するメタ映画的構造、映像、美術、音楽での実験的試みなど、そのすべてが映画とは何かを激しく突き付ける衝撃的な内容となつた。

新宿泥棒日記



1969年／35mm／パートカラー／スタンダード／94分

製作・中島正幸／監督・大島渚／脚本・田村猛、佐々木守、足立正生、大島渚 撮影／吉岡康弘、仙元誠三／美術・戸田重昌／出演・横尾忠則、横山リエ、唐十郎、田辺茂一、高橋鐵、佐藤慶、渡辺文雄、戸浦六宏
解説:1968年の新宿を舞台に、二人の男女が織りなすアーチーな「青春」劇。状況劇場の唐十郎、紀伊國屋書店の田辺茂一、創造社、若松プロのメンバーら数々の豪華出演陣と騒乱する街のドキュメントによって、新宿の代名詞とも呼ばれる作品となつた。アートシアター新宿文化地下のアンダーグラウンド蠍座も劇中に登場している。

薔薇の葬列



1969年／35mm／モノクロ／スタンダード／107分

製作・工藤充／監督・松本俊夫／撮影・鈴木達夫／音楽・湯浅謙治／美術・朝倉摸／出演・ビーター、土屋嘉男、小笠原修、秋山庄太郎、栗津潔、嵯川幸雄、篠田正浩、ゼロ次元、淀川長治
解説:新宿のゲイボーイたちを主人公に、ギリシャ悲劇のオイディプス王を現代に翻案した異色の愛の物語。実験映画作家、理論家として知られていた松本による最初の前衛的劇映画であり、この作品の成功によって、ATG映画の実験精神は、更に加速されていくこととなつた。当時、16歳だった時代の寵兒・ビーターの美しさは秀逸。

天使の恍惚



1972年／35mm／パートカラー／スタンダード／90分

企画、製作・葛井欣士郎／企画、製作、監督・若松孝二／脚本・出口出(足立正生)／撮影・伊東英男／音楽・山下洋輔トロイオ／スチール・中平卓馬／出演・吉沢健、横山リエ、本田竜彦、荒砂ゆき、吉田潔
解説:東京総攻撃を計画する革命軍・四協協会のメンバーが、米軍基地襲撃を皮切りに無差別爆弾による都市ゲリラ戦を展開していく。公開直前に劇場近くの交番が実際に爆破され、連合赤軍事件なども起きたため、「無差別テロ」を助長するとして上映反対の大キャンペーンが巻き起こり、日本映画史上に残る最も過激な問題作となつた。

モデレーター: 毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督・空間演出家)、平沢剛(映画研究者)

6月8日(木) 18時開演 17時30分開場

寺山修司 『書を捨てよ町へ出よう』 1971年

アフタートーク: 榎本了壱(京都造形芸術大学教授 情報デザイン学科長・クリエイティブディレクター)

× 九條今日子(人力飛行機舎代表)

6月9日(金) 18時開演 17時30分開場

大島渚 『新宿泥棒日記』 1969年

アフタートーク: 葛井欣士郎(映画演劇プロデューサー)

× 毛利臣男(京都芸術劇場芸術監督・空間演出家)

6月10日(土) 14時開演 13時30分開場

松本俊夫 『薔薇の葬列』 1969年

アフタートーク: 松本俊夫(映像作家) × 四方田犬彦(映画史家)

6月11日(日) 14時開演 13時30分開場

若松孝二 『天使の恍惚』 1972年

アフタートーク: 若松孝二(映画監督) × 足立正生(映画監督)

主催: 京都造形芸術大学

協力: イメージフォーラム、大島渚プロダクション、東宝、若松プロダクション(50音順)

特別協力: 葛井欣士郎

■お問合せ:

京都造形芸術大学 劇場企画運営室(担当:倉岡、上田)

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

tel: 075-791-9437 fax: 075-791-9438 e-mail: info@k-pac.org



■会場アクセス:

◇JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
一京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」
下車(京都駅から約50分)

◇市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から
一京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

◇京阪電鉄「出町柳」駅から

→鞍馬電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分。

→タクシーで10分

◇駐車場はございません。